令和５年度　北海道大学医学部医学科学士学位記伝達式告辞

１００期の１１４名の皆さん、卒業おめでとうございます。医学科の課程を修了し、これから医師として活躍される皆さんの輝かしい門出を、本学教授陣を始め医学部教職員を代表して心からお祝い申し上げます。

皆さんの旅立ちにあたり、皆さんが北大で何を学んだのか、これから医学とどのように向き合っていくべきなのかについて述べます。

北海道大学が掲げている教育理念のひとつに「全人教育」があります。全人とは「知識・感情・志（こころざし）の調和のとれた人」と理解されています。１８７６年に、北海道大学の前身である札幌農学校の初代教頭ウイリアム・スミス・クラーク博士は、札幌農学校の開校祝辞で、「長年の間、東洋の国々を暗雲のごとく包んで来た因習と身分制度の暴政からの解放は、教育を受けようとする全ての学生達の胸に高邁なる大志を抱かさずにはおかない。」と述べ、明治維新による身分制度の廃止と封建制度からの解放により、人々が平等と自由を獲得したことは実に素晴らしいことであり、学生達の胸に大きな志を持たせるものであることを伝えました。クラーク博士はまた、細かな校則を廃止して、「Be gentle」の一言を校則とし、学生達の自律心と独立心を目覚めさせ、個の確立を促し、まさに北大の全人教育の礎をつくりました。

皆さんは、ここで得た知識とともに、この北大の学び舎で涵養してきた感情や志の調和をもとに「医学・医療」の活動を通じて人類社会に貢献する資格を本日得ました。資格を得たと同時に、大きな責任を負ったということでもあります。すなわち、医学・医療のように進歩が激しい領域に身を置く者は絶えず学ばなければならないということです。それによって、医師や研究者としての社会的責任の一端を継続的に果たすことができます。

そして「全人」となるべく、なによりも大切なことは、医学に対する謙虚さと誠実さであります。学士学位に相応しいプライドと共に、謙虚で誠実であることを忘れてはなりません。

これからの医学の道において、国民から期待されている皆さんの使命は、優れた臨床能力を持つとともに、研究を通じて医学・医療の進歩に貢献できる指導的な医師となることです。皆さんには、このような国民から負託された大きな使命があることを深く心に刻んでください。現在、世界最高レベルにある日本の医療は、時代を超えて脈々とこの使命を果たしてきた多くの先輩達によって、築かれてきたものです。皆さんはこれから、この使命を果たしている多くの先輩に出会い、指導を受け、そして立派な医師に育っていくことでしょう。そして、高い志を持って、皆さんがこの使命を果たしてください。

医学・医療の新しい知識・技術をたゆまなく取り入れていくことが、優れた医師や研究者になるためには不可欠であることは間違いありませんが、さらに適確な判断力と批判力が必要となります。この批判力を養うためには、キャリアの一時期に研究の場に身を置くことがきわめて有効です。研究医を目指している方はもちろんですが、医療の第

一線で医師として活躍したいと考えている方も、臨床研修ののちは、大学院博士課程に進学し、適確な批判力を涵養して欲しいと思います。

医師を取り巻く社会状況にも厳しいものがありますが、全人として医師の責務を誠実に果たしていけば、皆さんは人々から尊敬と信頼を得ることができます。これは医学・医療技術がいかに進歩しても変わらない真実であります。

最後に、札幌農学校の初代教頭であったクラーク博士が唱えた"lofty ambition"（高邁なる大志）という言葉は、世紀を超えて北海道大学を揺るぎなく支えてきた理念であります。この言葉を胸に刻み、大きな夢と高い理想を持ち、自らの持てる能力を最大限に発揮することができる「全人」として、皆さんがそれぞれの分野で元気に活躍されることを祈念して、私の告辞とします。

令和６年３月２５日

北海道大学医学部長　畠山鎮次